

イネ総合種子消毒剤

クミアイ デクワイードCフロアブル[®]

イブコナゾール・・・・・・・・5.0%
水酸化第二銅・・・・・・・・4.6% (銅として3.0%)

®は(株)クレハの登録商標です。

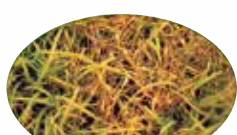


特長

- 1 総合種子消毒剤** ばか苗病、苗立枯病などの他、細菌病にも有効
- 2 優れた付着力と浸透性** 風乾の有無にかかわらず高い効果
- 3 安定した効果** 他剤耐性イネばか苗病菌にも有効



ばか苗病



もみ枯細菌病



苗立枯細菌病



いもち病



苗立枯病(リゾプス菌)

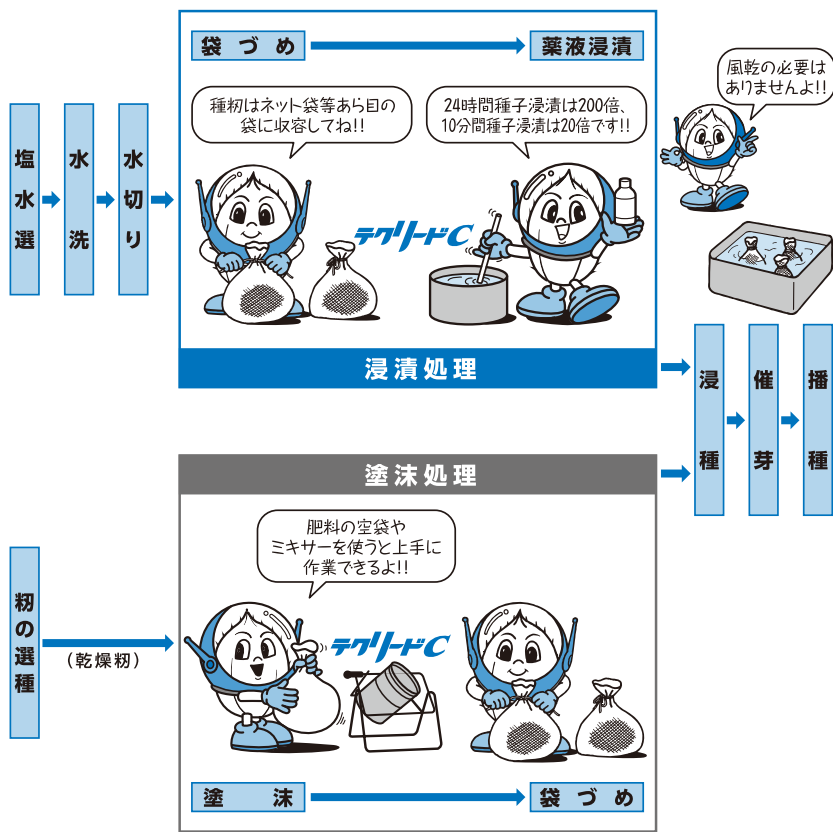


褐条病

イネばか苗病・いもち病・ごま葉枯病・苗立枯病 もみ枯れ細菌病・苗立枯細菌病・褐条病の防除に

テグリードCフロアブル

上手な使い方

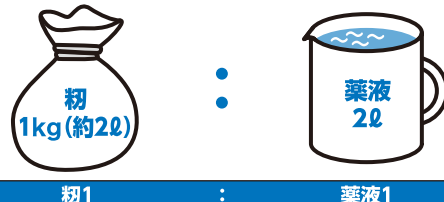


浴比と水量

種粉量	水量もしくは薬液量	
	浴比 1 : 1※	浴比 1 : 2
1kg	2ℓ	4ℓ
10kg	20ℓ	40ℓ

※「浴比1:1」とは、粉1kg(約2ℓ)の場合、薬液量が2ℓ必要であることを示します。

浴比 1 : 1



十分に粉を浸漬するために2ℓの薬液を推奨します。

混用・体系事例

対象病害虫	混用、体系処理薬剤	処理方法	適否
イネシנגレセンチュウ	スミチオン乳剤	混用浸漬(24時間)	可
	スミチオン乳剤	混用吹き付け	可
	ダコニール粉剤	床土混和	可
	タチガレエース粉剤	床土混和	可
	タチガレエースM粉剤	床土混和	可
イネ苗立枯病	ナエファイン粉剤	床土混和	可
	ダコニール1000	播種時～緑化期灌注	可
	ダコレート水和剤	播種時～緑化期灌注	可
	タチガレン液剤	播種時～発芽後灌注	可
	タチガレエース液剤	播種時～発芽後灌注	可
	タチガレエースM液剤	播種時～発芽後灌注	可
	ナエファインフロアブル	播種時～緑化期灌注	可
	ペンレート水和剤	播種時灌注	可
細菌性病害(イネもみ枯細菌病など)	カスミン液剤	播種時灌注	可

※あくまでも混用の目安としてください。

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イプコナゾールを含む農薬の総使用回数	銅を含む農薬の総使用回数
稲	もみ枯細菌病	20倍	浸種前	1回	10分間種子浸漬	1回	—
	苗立枯細菌病	200倍			24時間種子浸漬		
	褐条病	7.5倍			種子吹き付け処理 (種子消毒機使用) 又は 種子塗沫処理		
	ばか苗病	使用量は乾燥種粉 1kg当り希釈液30mℓ					
	いもち病	4倍					
	ごま葉枯病	使用量は乾燥種粉 1kg当り希釈液20mℓ					
	苗立枯病 (リゾブス菌・ トリコデルマ菌)	原液 使用量は乾燥種粉 1kg当り希釈液5mℓ					

使用上の注意事項(抜粋)

- 使用前に容器をよく振って均一な状態に戻してから、所定薬液を調製してください。
- 本剤とチウラム混合剤との混用及び本剤処理粉とチウラム混合剤処理粉との同時浸種等は細菌病防除効果の低下を生じる場合がありますのでご注意ください。
- 本剤は亜鉛を劣化させることがあるので、使用する器具等は亜鉛製のものを使用しないでください。
- 種子消毒は浸種前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種してください。
- 浸漬処理の場合、粉と処理薬液の容量比は1:1以上とし、種粉は目の粗い網袋などを用い、薬液処理時によくゆすってください。
- 薬液の温度は極端な低温をさけてください。
- 塗沫処理の場合は、適当な容器内で薬液を滴下するなどして、種粉に均一に付着させてください。なお、原液塗沫の場合、乾燥粉は付着をよくするため粉の2%相当の水で予め種粉を湿らせ、(また塩水選水切り後などの湿った粉はそのまま)塗沫してください。
- 吹き付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種粉に均一に付着させて乾燥してください。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延を認めることがありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。但し、極端には種時の覆土が少ない場合には、

初期生育遅延(発芽抑制、根の伸長抑制等)が強くなるおそれがあるので注意してください。

- 本剤の処理を行った種粉を浸種する場合は、次の事項を守ってください。
 - ・浴比は1:2とし停滞水中で浸種してください。
 - ・河川、湖沼、ため池などで浸種しないでください。
 - ・10℃以下の極端な低水温での浸種は、催芽や出芽が遅延、抑制される場合がありますので、必ず10℃以上(15℃～20℃が適温)の水で浸種してください。
 - ・ハト胸催芽機やエアレーション付きの水槽などで浸種すると、黒色の粘性物が発生する場合がありますので、使用しないでください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。

保管:直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管してください。

本資料は2019年12月現在の知見に基づき作成しております。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌に記帳しましょう。

1711(20-1)